

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築版(2019年版) 名古屋環境建築物環境総合評価システム2.0(2016) |使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東桜1-1再開発計画	階数	地下2F、地上17F
建設地	名古屋市東区東桜一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2019年12月12日
敷地面積	(仮想)3970.00 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,669 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月12日
延床面積	30,281 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE 3.4** ★★★★★

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 60% 30%

標準計算

①参照値	184 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
②建築物の取組み	75%
③上記+②以外のオンサイト手法	75%
④上記+オフサイト手法	75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 4.0

音環境	4.0
温熱環境	3.6
光・視環境	4.1
空気質環境	4.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.4

機能性	4.5
耐用性・信頼性	4.5
対応性・更新性	4.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.8

生物環境	5.0
まちなみ・景観	5.0
地域性・アメニティ	4.5

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の	3.8
自然エネ	5.0
設備システ	3.6
効率的	5.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.2

水資源	3.8
非再生材料の使用削減	4.4
汚染物質回避	4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	3.6
周辺環境への配慮	3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 『地域の環境改善に寄与する計画』 地下1階から3階以下の低層部にDHCを導入、4階以上のオフィスフロアには高効率のパッケージ空調を採用し、環境性能の向上を図っている。また、敷地全体で20%以上の緑化率を確保し、効果的な緑化に取り組んでいる。		
<b>Q1 室内環境</b> 自動制御ブラインドによりグレアを制御し光・視環境に配慮している。 F☆☆☆☆、VOCの放散量が少ない建材を全面的に採用し空気質環境にも十分配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 制震による損傷制御設計を行うことで建物のこわれにくさを向上し、補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内各所や建物上を緑化することで緑の量を確保し、自生種の採用や植栽条件に応じた適切な緑づくりにより緑の質を確保することで生物環境の保全と創出に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 自然採光による自然エネルギーを積極的に利用し、使用エネルギーの削減に配慮している。 BEMSの導入や運用管理体制を組織化し運用時の定期的な設備性能検証、不具合是正等の具体的な実施方を計画することで効率的運用に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 既存躯体の再利用やリサイクル資材を採用するなど、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 不活性ガス消火剤やノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量を低減し、地球温暖化へ配慮している。 数値流体解析による風環境調査を実施し、風害の予防計画や温熱環境悪化の改善効果の確認を行い地域環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される